

令和元年度津別町総合戦略事業（地方創生事業）の実績について

1. 地方創生推進交付金（令和元年度実施分）

- ・「コンパクトシティの推進：津別町の特徴を生かした地産地消による域内経済循環と地場製品の外消で稼ぐ持続可能なエコタウンの確立」事業

事業名	内容
<p>まちなか再生とまちの賑わい創出事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業概要 <p>平成 27 年度からのまちなか再生に係る継続事業。昨年度末に設立された北海道つべつまちづくり株式会社への負担金として支出し、フードホール運営、ふるさと納税 E C 販売、特産品開発・事業創出支援等の地域商社事業を実施する。</p> ・進捗状況 <p>平成 3 1 年 4 月 5 日に法人登記（3 月 2 8 日付け）が完了。 ふるさと納税に係る業務をまちづくり会社へ委託（ふるさとチョイス・楽天ふるさと納税を活用）。 町 産業振興課主催のガバメントクラウドファンディング「相生鉄道公園の列車再塗装プロジェクト」へのサポート。寄付金額 1, 3 0 6, 0 0 0 円 9 月開催予定のフードホールスピンオフイベントの内容やコンセプト等を町民に事前に周知するため、キックオフイベントを 7 月 1 7 日に開催した。 町内の事業者（ケーキ銘菓のしのはら、津別町手をつなぐ育成会）と連携し、7 月 3 0 日のクマヤキサブレ町内お披露目会を経て、8 月 1 0 日に道の駅あいおい、東武イーストモールにてクマヤキサブレ販売開始（現在はケーキ銘菓のしのはらでも販売） クマヤキサブレの認知度アップを狙い、H B C 赤れんがプレミアムフェストや北大マルシェ 2019（共に札幌市）などのイベントへ出店 8 月 3 1 日、津別ファンクラブサイトをリニューアルオープン 9 月議会にてレストハウス改修費の補正予算案が可決され、今年度中の完成を目指して改修工事が決定。財源は「地方創生拠点整備交付金」を活用（交付決定済） 9 月 2 8 日、2 9 日の 2 日間でフードホールスピンオフイベント（緑の中のロングテーブル、Tsubetsu BBQ Cabin）を開催。来場者：延べ 5 0 0 名。 年末に向けて新聞やウェブなどにふるさと納税 P R 広告掲載を実施。 3 月 1 0 日にレストハウス改修工事完了（検査・受渡）。4 月を目途に町よりまちづくり会社へ賃貸開始予定。 令和元年度ふるさと納税実績額：6 0, 0 2 8, 1 0 9 円（平成 3 0 年度実績額：4 8, 3 2 0, 0 0 0 円）</p>
<p>障がい者・生活困窮者の働く場の創出事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業概要 <p>平成 29 年度から継続し、生活困窮者（ひきこもり者等）を対象にした「居場所」運営、就労に向けての「中間的就労の場」での活動を進めながら、障がい者や引きこもり者を含めた生活困窮者が安心して暮</p>

	<p>らせる環境整備を図る。</p> <p>・進捗状況</p> <p>4月10日に、株式会社びーとと事業委託契約締結。</p> <p>(1) 「居場所」について</p> <p>社協より臨時支援員を配置し、常設ではなく予約制での開設、定期利用者の利用日は開設することとして継続。</p> <p>(株)びーととの連携事業として、千葉県船橋市で心理カウンセラー、引きこもり支援を行う山田賢明氏を講師に、さんさん館にて毎月定期的に講演ライブを開催し、引きこもりへの理解を深めるとともに相談のハードルを下げることを目指す。</p> <p>【成果】</p> <table border="0"> <tr> <td>4月15日</td> <td>参加者約30名</td> <td>5月13日</td> <td>参加者約30名</td> </tr> <tr> <td>6月13日</td> <td>参加者約25名</td> <td>7月22日</td> <td>参加者約25名</td> </tr> <tr> <td>8月19日</td> <td>参加者約20名</td> <td>9月24日</td> <td>参加者約20名</td> </tr> <tr> <td>10月17日</td> <td>参加者約20名</td> <td>11月18日</td> <td>参加者約20名</td> </tr> <tr> <td>12月16日</td> <td>参加者約15名</td> <td>1月20日</td> <td>参加者約30名</td> </tr> <tr> <td>2月17日</td> <td>参加者約35名</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>※3月については新型コロナウイルス拡大防止のため中止。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道東テレビとの協力によるネット配信（毎月1動画作成） ・社協職員と主に、町内引きこもり者宅へのカウンセリング訪問 ・7月23日、ふれあい町民のつどいにて講演 ・12月17日、津別中学校の授業にて講演 <p>(2) 地域情報収集及び働ける人と働ける場所のマッチング</p> <p>町内における仕事、ボランティアニーズ等の拾い上げや、地域イベントなどの情報収集等を行い、地域の困りごとなどと生活困窮者も含めた地域住民の情報マッチングを行なう。</p> <p>(3) 就労継続支援事業の施設外就労を行うための事業所立ち上げ</p> <p>引きこもり等生活困窮者のうち、福祉的支援者付きの就労が必要な人も多い。それを補う就労支援施設の開設を目指し体制作りを執り進める。</p> <p>運営中のグループホーム「くりん荘」利用者3名については、手をつなぐ育成会のクレシェにて就労を継続している。くりん荘及びクレシェがすでに定員に近づいていることから、需要に応じて住と職の一体的な整備に係る必要性を検討していく。</p>	4月15日	参加者約30名	5月13日	参加者約30名	6月13日	参加者約25名	7月22日	参加者約25名	8月19日	参加者約20名	9月24日	参加者約20名	10月17日	参加者約20名	11月18日	参加者約20名	12月16日	参加者約15名	1月20日	参加者約30名	2月17日	参加者約35名		
4月15日	参加者約30名	5月13日	参加者約30名																						
6月13日	参加者約25名	7月22日	参加者約25名																						
8月19日	参加者約20名	9月24日	参加者約20名																						
10月17日	参加者約20名	11月18日	参加者約20名																						
12月16日	参加者約15名	1月20日	参加者約30名																						
2月17日	参加者約35名																								
再生可能エネルギーの利活用推進事業	<p>・事業概要</p> <p>林地残材等を活用した再生可能エネルギーの導入推進</p> <p>・進捗状況</p> <p>(1) マネジメントセンター発足・運営</p> <p>平成30年度中に、マネジメントを司る新会社の設立について協議・検討を実施していたが、既存の会社にて本事業を担うことがより理想的である方向となった。</p> <p>既存会社については本事業部門を有していないことから事業拡大を目指す。</p> <p>「地域内エコシステム」のサプライチェーンと、主事業となる木質</p>																								

	<p>バイオマスセンターについて検討を行った。既存会社が担う再生可能エネルギーマネジメントセンター（運営組織）については、木質バイオマスセンターの運営等町内のエネルギー利用における業務整理を行った。</p>
--	---

・「津別とつながる地域拠点創出による移住・起業・エリアリノベーション誘発プロジェクト」事業

事業名	内容
<p>移住・起業・空き家等利活用促進事業</p>	<p>・事業概要 北海道つべつまちづくり株式会社への負担金事業として実施。平成 30 年度に空き家等を利活用する起業支援型コワーキングスペースを完成、オープンへ至った。「地域融合型ゲストハウス」についても町内外の人材を巻き込みながら空き家等をリノベーションし、人的資本や情報が集積する場所として立ち上げる。</p> <p>・進捗状況 平成 29 年度から協力を受けている事業者（MNA P）と引き続き事業推進。 空き家等の利活用を推進するために、空き家バンクホームページ及び、移住・定住ホームページ等を活用し、本格的に町内の空き家情報の掘り起こしを実施すると共に、町外から町内への移住・定住に係る推進体制を確立する。</p> <p>(1) 地域融合型ゲストハウスの立ち上げ 5月26日付けで物件の契約が完了。 8月22日付けで所有権移転（登記完了）。 8月24日のリノベーションワークショップにより施設改修が開始となった。複数回のリノベーションを経て年度内の完成及び開業を目指す。 2月21日より3月31日までを期間としてクラウドファンディングを実施。173名の支援者より1,289,609円の支援を集める。 3月7日にゲストハウス完成を祝してオンラインイベントを実施。 3月13日ゲストハウス nanmo-nanmo オープン。オープニングイベントを企画するも新型コロナウイルス拡大防止及び各所の自粛情勢のため中止。</p> <p>(2) 起業支援型コワーキングスペース運営主体の形成 コワーキングスペース開業後の専門家によるフォローや起業支援のプロモーションのもと、自立運営の基礎を築いていく。 4月よりレンタルスペースの利用や、ドロップイン会員、個ブースの申込あり。 5月よりまちづくり会社事務所としてオフィス利用。 火・水を除く週5日間で8:00～17:00まで施設内で幾島珈琲研究所とコラボレーションし、カフェを営業 毎週金曜日18:00より施設内カフェスペースを利用し、有志がマスターを務めるシ</p>

ェアバーを開催し、町民集いの場となっている。

不定期で、まちづくりの今後を盛り上げるアイデアを生み出すイベントなど多数イベント開催、他者開催のイベントへの会場提供及び雑誌等のメディア露出など、町内外を問わず交流の場として賑わいを見せている。

令和元年度の累計でカフェが約1,800名、シェアバーが約600名、イベントが約600名と合計で3,000名ほどが利用。

移住者と地域の方をつなぐイベントや、エリアリノベーション関係で訪れたE X I L E男旅の取材、道東エリアリノベーションプロジェクト振り返り番組の会場など各種イベント等により活用。

2月21日にコワーキングスペースJIMBAのオープン1周年を記念してオンラインイベントを開催。

(3) エリアリノベーションの促進

空き家利活用の連鎖を生み出すためのプロモーション、ワークショップを通じたリノベーションのノウハウ伝達、第3・第4のリノベーションが継続していく仕組み構築を検討中。

- ・ゲストハウスのリノベーション期間中に複数回にわたり、一般参加型のワークショップを開催し、空き家のリノベーションのノウハウを伝達。

【実績：全17回、延べ500名参加】

- 8月24～25日 解体ワークショップ【実施済み】
- 9月21日 壁掛け収納ワークショップ【実施済み】
- 10月12～13日 内装工事ワークショップ【実施済み】
- 11月 2～ 3日 内装・建具・塗装ワークショップ【実施済み】
- 11月30～ 1日 内装・器具組立・塗装ワークショップ【実施済み】
- 12月14～15日 家具組立ワークショップ【実施済み】
- 1月18～19日 総集編①【実施済み】
- 2月 1～ 2日 総集編②【実施済み】
- 2月15～16日 総集編③【実施済み】

- ・交流人口、関係人口拡大に向けた取り組みとして、移住希望者・起業希望者とのネットワークを構築するため、町外で津別町のPRイベントを随時計画中。

- 6月23日 本気の移住相談会（東京都）
～住まい、仕事、地域など具体的に情報提供を行い、定住へつなげるイベント～
- 9月14～15日 北海道移住ドラフト会議（札幌市）
～北海道への移住希望者と移住者を求める企業・自治体とのマッチングイベント～
- 10月 6日 北海道暮らしフェア2019（大阪府）
～北海道の生活、仕事、住まいなど担当者から直接案内し、転職、移住を検討～

(4) まちづくり会社への地域コーディネーター機能の設置 町外者とのつながりを推進する人材として地域コーディネ

ーター（移住コンシェルジュ）の採用及び育成を検討中。

移住窓口業務：

4月： 2件（うち新規2）	5月： 3件（うち新規1）
6月： 29件（うち新規15）	7月： 3件（うち新規1）
8月： 3件（うち新規2）	9月： 5件（うち新規5）
10月： 25件（うち新規21）	11月： 7件（うち新規4）
12月： 6件（うち新規3）	1月： 3件（うち新規0）
2月： 1件（うち新規0）	3月： 4件（うち新規1）

※6月は本気の移住相談会11組を含む

※10月は北海道暮らしフェア in 大阪17組を含む

空き家バンク問合せ&対応件数・成約件数

4月： 18件（うち新規10）	・0件
5月： 17件（うち新規10）	・建物売買1件
6月： 15件（うち新規12）	・0件
7月： 22件（うち新規7）	・建物売買3件
8月： 13件（うち新規7）	・建物売買1件
9月： 24件（うち新規13）	・建物売買1件
10月： 18件（うち新規8）	・建物売買2件
11月： 19件（うち新規9）	・建物売買1件
12月： 23件（うち新規9）	・建物売買1件
1月： 19件（うち新規4）	・建物売買1件
2月： 8件（うち新規2）	・建物売買2件
3月： 19件（うち新規6）	・建物売買1件

税務係より発送の固定資産税の納付書に空き家バンクの紹介（裏面に住宅系の事業紹介）を同封し、空き家バンクの周知を図った。

昨年度より継続して募集していた地域おこし協力隊（移住・定住サポートデスク）について、7月末日までに2名の応募があり、書類選考及び面接試験の結果1名を採用。着任については今年度末頃を予定。

9月12～13日 LIFULL空き家相談の担い手育成講座へ参加

2月11日に起業者向け空き家見学ツアーを開催。町内外より3組5名が参加。

2. その他財源活用事業（単独事業を含む）

・大学生との連携によるまちづくり事業（いきいきふるさと推進事業）

事業名	内容
大学生との連携によるまちづくり事業 （いきいきふるさと推進事業助成金）	<p>・事業概要</p> <p>平成28年地方創生まちづくりアイデアコンペで優秀賞を獲得したことをきっかけに北海道大学公共政策大学院の学生とのつながりが生まれ、その学生を中心として学生団体（HALCC）設立に至った。</p> <p>HALCCの活動として平成28年度18名、平成29年度、平成30年度ともに16名の学生が来町し、地方創生についての現地調査と発表会を実施した。</p> <p>令和元年度も津別高校との高大連携事業を中心に取り組みを継続しており、25名ほどの学生が活動に参画した。</p> <p>・進捗状況</p> <p>【全体行程】</p> <p>① 6月29～30日 学生14名、OB1名が来町 ・大学生、津別高校、住民企画課で打ち合わせを実施し事業内容を決定</p> <p>② 8月22～23日 学生15名が来町</p> <p>③ 9月12～13日 学生8名が来町</p> <p>④ 10月18～20日 学生5名が来町</p> <p>⑤ 12月 6～ 8日 学生14名が来町し、中央公民館にて成果報告会を実施。</p> <p>（津別高校生は全校生徒が参加（3年生は聴講のみ）、北海道大学14名、OB・OG2名、一般聴講者17名）</p> <p>⑥ 2月 6～ 7日 学生9名が来町し、成果品提出や次年度への打合せ等を実施。</p> <p>(1) 北大マルシェ班（高校生と大学生との連携事業）</p> <p>②の日程で高大連携ワークショップを実施。北大マルシェイベント（9月16日に北海道大学構内で実施）で販売する津別の特産品候補を高校生の意見で決定した。（流水牛ジャーキー、津別ラーメン、有機ビーフカレー、有機たまねぎ、クマヤキサブレ、クマヤキグッズ）</p> <p>③の日程で高大連携ワークショップを実施。生産者ヒアリングやブースの装飾を作成。</p> <p>9月15～16日、高校生4名が北海道大学を訪問。初日はキャンパス見学を実施し、二日目に北大マルシェイベントでの特産品販売を実施。全体を通じて、昨年度よりも客足が少なく、用意した商品の70%程度の売れ行きとなった。</p> <p>④の日程のうち初日に高大連携ワークショップを実施し、成果報告会に向けた資料作りへ取り組んだ。</p> <p>(2) 若者議会班（高校生と大学生との連携事業）</p> <p>②の日程で高大連携ワークショップを実施。大学生が用意し</p>

たテーマ毎の6班に分かれ、各テーマに基づいて課題の洗い出しや改善策の模索を実施した。

③の日程で高大連携ワークショップを実施。各班ごとの宿題（高校生独自の動き）についての報告や各班のテーマについて深掘りを行い、発表を実施した。

10月19～20日、高校生15名が北海道大学を訪問。講師からの模擬講義を受けたり、構内見学を実施。その後グループワークや、成果報告会に向けた資料作りを実施した。

(3) 津別留学班

昨年度からの継続事業

②の日程で、子ども向けの体験型教育観光ツアーの企画を目的に、つべつ木工体験工房、まちづくり会社、住民企画課との協議を実施。

(4) まる太くん班

まる太くんの認知度アップ及びそれをきっかけとする町内の活性化を目指し、まる太くんのイラスト原案の作成を行った。

②の日程で、今後の進め方や注意事項等について観光協会と協議。津別高校生へイラスト案の募集を実施。

⑤の日程のうち初日に観光協会を訪問し、デザインデータの受渡しを行った。

観光協会にて、HALCCより提供を行ったデザインの一部を活用したポスターを作製し、札幌で開催のイベントへ観光協会が参加した際に活用。

(5) 新規事業班

上記以外の企画として町内のニーズや課題解決のため、新たな事業の立ち上げを目指す。今年度については町内におけるHALCCの認知度が低いということから、町民との交流を図るためイベントに参加し、HALCCの活動紹介や北大関連グッズの販売を企画。

②の日程で、イベントの選定や企画の概要について観光協会と協議。産業まつりでの出店を目指すこととなった。

④の日程最終日（20日）開催の産業まつりにて、北大関連グッズの販売や事業内容の紹介などを実施。学生5名と津別高校生3名で出店し、多くの町民がブースに訪れた。